

幼児の予防接種補助拡大

市が小学校就学前までに

B型肝炎

松本市が設けている、幼児のB型肝炎ワクチン接種費の補助制度で、松本市の菅谷昭市長は26日、現在は2歳未満としている補助の対象を、小学校就学前までに拡大する考えを示した。B型肝炎ワクチンに関し国は10月から、1歳未満の接種費を全額公費負担する定期接種としたが、市独自に補助対象を広げる。市によると就学前までを補助対象とするのは全国的に珍しい。(田子元気)



菅谷市長(左)と山会長がB型肝炎ワクチン接種費補助の対象を就学前までに拡大する考えを示した。

菅谷市長は、医療・福祉に関する要望活動で市役所を訪れた市医師会杉山会長との懇談で「就学前まで考え計画的にやっていき

たい」と語り、平成29年度当初予算に必要経費を盛り込むことを検討する考えを示した。杉山会長は「想定以上の対応をしていただき感謝

市立保育園・幼稚園の職員がワクチン接種の

さんを楽しんで金井さんをお待ちの親子



B型肝炎を引き起こすウイルスは、他の肝炎ウイルスに比べて感染力が強く、血液や涙

などからも感染するとされる。世界保健機関(WHO)によると1歳から4歳までに感染すると慢性化しやすい、将来的に肝硬変や肝臓がんなどの重い病気を引き起こすことがある。

市によると、27年度補助対象者は4113人で、63.2%に当たる2599人が補助を利用し、市の負担は約1250万円だった。補助対象を就学前までに拡大すると、29年度の対象者は6300人ほどになる見込みで、半数が補助を利用した場合の市の負担は約2300万円となる。

「シルバードモクラシ」に触れ「これから はむしろ子供たちや子育て世代に予算をシフトしていかないといいない」と語った。

具体的な補助縮減額や実施時期には言及しなかった。

インフルエンザワクチンの値上げに伴い、県内の市町村では長野、上田、伊那、駒ヶ根の各市などが28年度に自己負担額を200、300円値上げした。

策に手厚いとされる

インフルワクチン接種

65歳以上への補助縮減へ

65歳以上の高齢者を対象としたインフルエンザワクチン接種補助に、市は26日、要望活動で市役所を訪れた市医師会との懇談で「見直し時期に来ている」と述べ、補助額縮減を検討する姿勢を示した。

インフルエンザワクチンは平成27年に4200円から600円値上げされたが、市は高齢者の自己負担額を1000円に据え置き、差額を全額負担していた。自己負担額の据え置きを求めた医師会に対し菅谷市長は、日本の政治が高齢者関連の施

約4万2000人が接種している。

(田子元気)

市民オペラ合唱団 団員を追加募集

松本市深志3のまつ

とし、経歴は問わない。選考会では、オペラのエリアか歌曲をピアノの伴奏で1曲歌う。